

彌彦神社 第貳桜苑（神苑整備事業 貳期工事・参期工事）

歴史ある神社のご神苑整備のあり方

越後一の宮を冠する。創建1300年を超える彌彦神社のご神苑の整備事業である。
現在の拝殿の大正6年の再建（ご遷座）より100年を記念した、様々な事業の内の一つである。
南北に細長い傾斜した敷地に点在し、老朽化した施設群を順次解体と新築を繰り返しなが
ら再配置し、神苑全体を第貳桜苑とつう四季折々の変化に富んだ参拝者の方の憩いの空間
を創出した。
施設群は、境内に存立する他の建築群と統一感のある意匠で設計されている。
核となる弓道場・みずほ館は、下部を鉄骨造、屋根部分を木造とした混構造とすることで荘厳
でありながら、繊細な屋根の曲線を表現した。
また、これらの施設群には、本整備事業の過程で伐採を余儀なくされた「境内木」が構造材・仕
上げ材に関わらず、様々な箇所に積極的に採用されている。

【弓道場・看的棟・観覧棟・矢取棟（左）・みずほ館（中央）・相撲場（右下）・廁棟（右上）】 白壁に黒の和風のデザインで建造されている



【安田瓦】 弓道場・みずほ館の瓦、独特の渋みのある鉄色



【弓道場（奥）・みずほ館（手前）】 小屋組を木造、下部を鉄骨造とした混構造



【みずほ館（左）・弓道場（右奥）・観覧棟（右手前）】 入母屋形式の曲線が印象的



【みずほ館／ホール】 壁・天井とも杉板を使用



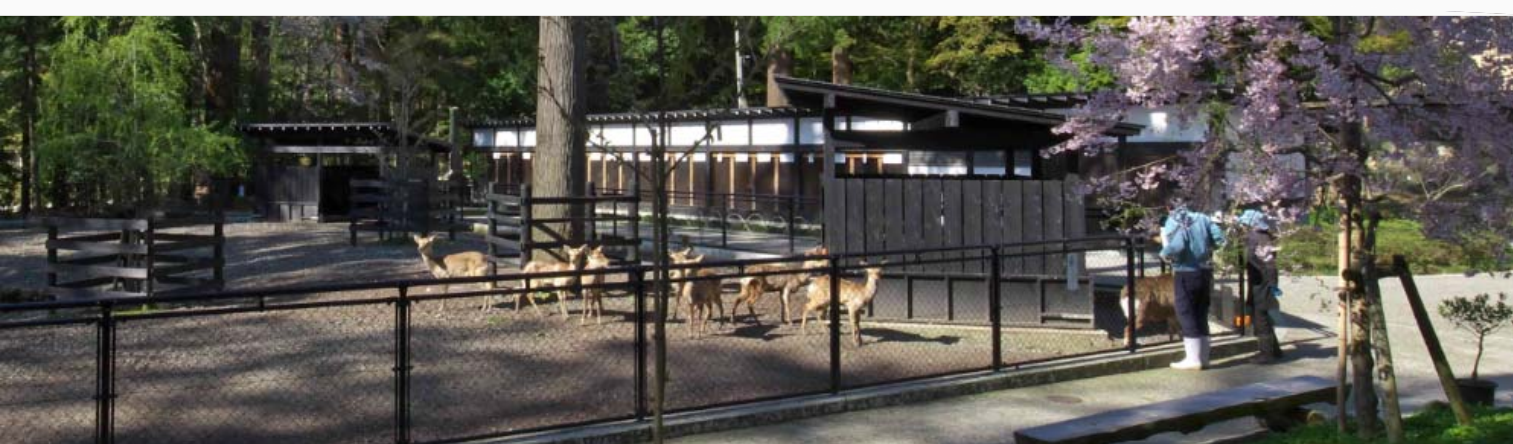
【廁棟】 境内を意圖して和風に



【林務棟】 神社の維持管理を行う部署の棟



【日本鶏舎棟】 展示室22室を備えた、全長約30mの建屋



【鹿苑・鹿小屋】 再構築され、既存樹の木陰で戯れる鹿



【弓道場】 矢道より弓道場の射場を望む、神事も執り行われる弓道場



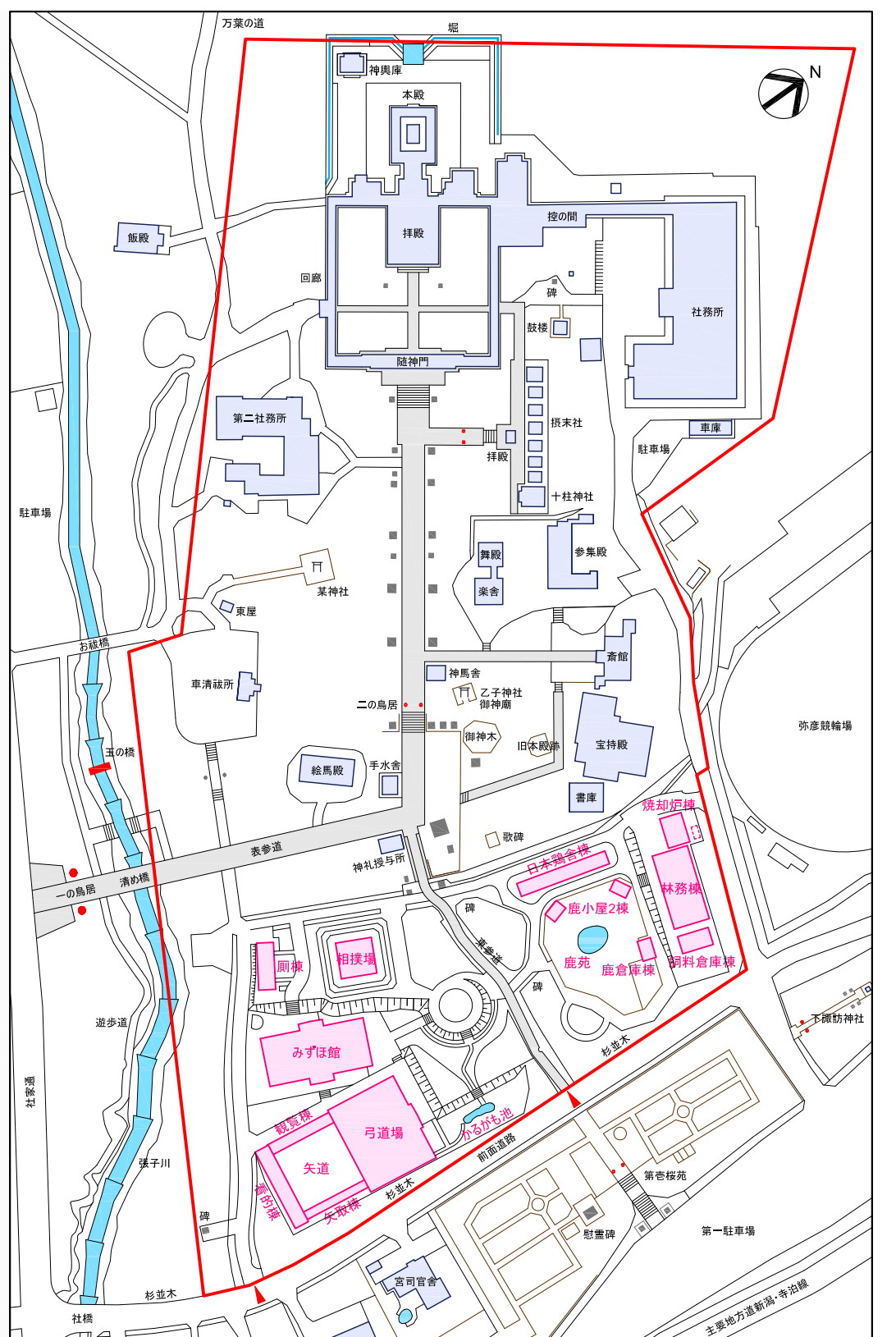
【弓道場／射場】 開口幅18m以上の6人立、天井高さ4mを確保し、全国大会開催可能な規格



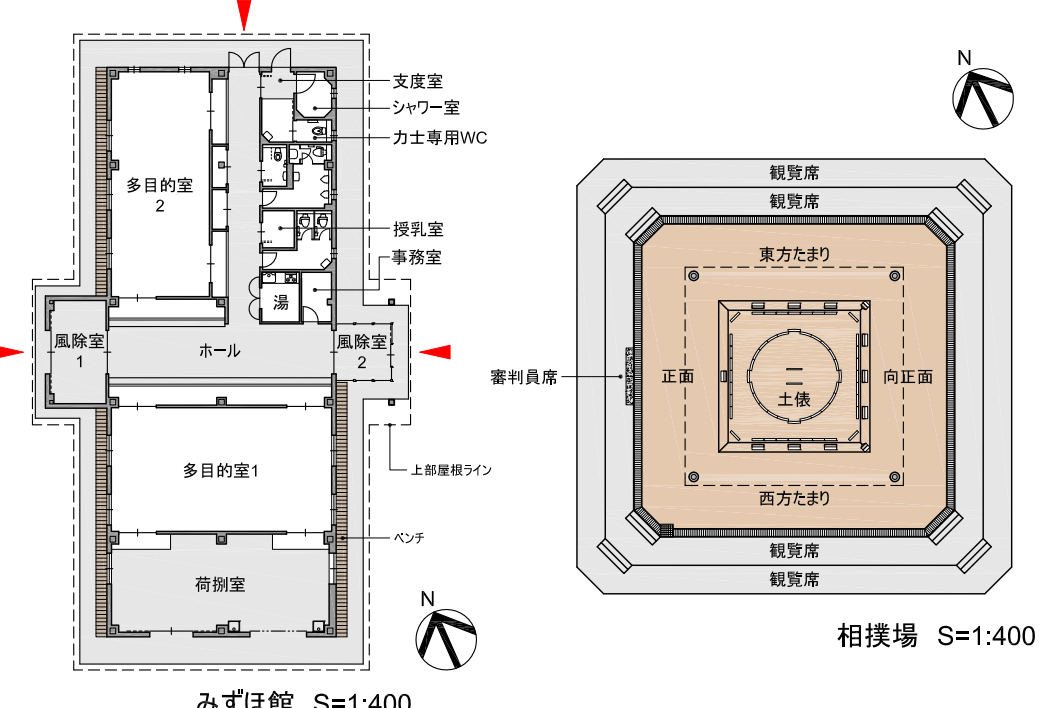
【相撲場】 伊勢ヶ浜部屋による土俵開き、大盛況でコンクリートの観覧席が見えない



大島桜と相撲場

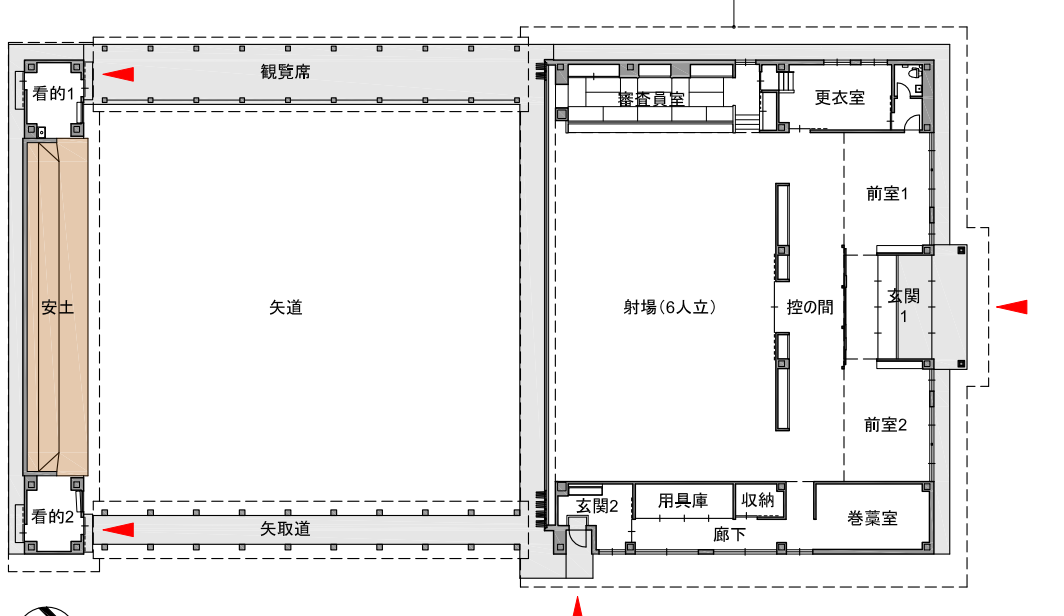


全体配置図 S=1:2,000

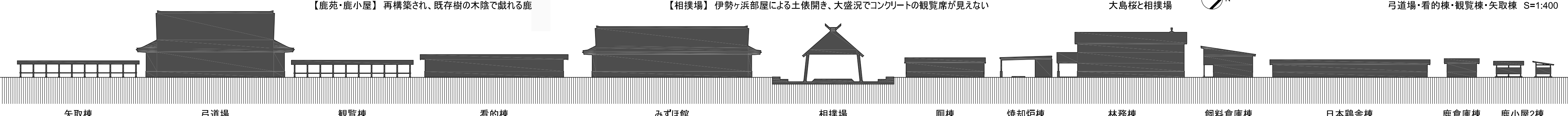


みずほ館 S=1:400

相撲場 S=1:400



弓道場・看的棟・観覧棟・矢取棟 S=1:400



矢取棟

弓道場

観覧棟

看的棟

みずほ館

相撲場

廁棟

焼却炉棟

林務棟

飼料倉庫棟

日本鶏舎棟

鹿倉庫棟

鹿小屋2棟